

漆喰^{しっくい}と暮らそう

SHIKKUI LIFESTYLE MAGAZINE

躍進する漆喰



特集

東武佐野線 田沼駅 誕生、世界に誇る漆喰壁の駅舎

お知らせ

走る!! 漆喰ショールーム 漆喰うま〜くヌレールカー始動!!

特別企画

青源味噌様 創業400年に寄せて 想いを繋いだ漆喰

.... and more

vol.7
AUGUST 2025

「漆喰と暮らそう」は、漆喰大好き!な日本プラスター株式会社のコミュニケーション誌です。

Big Thanks!!

西日本営業所

うま〜くヌレール LABO 京都
SHIKKUI life Style Laboratory-Kyoto

大阪府豊中市長興寺南1丁目1-37
クローバー・グランツ曾根1F

京都府京都市中京区市之町170

Hello!!

大阪支店

SHIKKUI Design STUDIO
-OSAKA-

うま〜くヌレール LABO 大阪
SHIKKUI life Style Laboratory-Osaka

大阪支店開設に際して

日頃より、日本プラスターの漆喰製品並びに漆喰工事に、
格別のご高配を賜り、誠に有難うございます。改めて心より御礼を申し上げます。

さて、弊社は本年8月28日、大阪府豊中市に大阪支店を開設いたします。
これに伴い、平成27年(2015年)より営業しておりました西日本営業所(京都市)を、
本年7月末日をもちまして閉鎖いたしました。
今後は東海北陸から近畿、九州沖縄に至るまでの西日本エリアを、大阪支店が担当いたします。

まずもって、10年間大変お世話になり格別のご愛顧をいただいた京都市の皆様へ、心より御礼を申し上げます。
創立以来86年、栃木を拠点に業務を進めてまいりました弊社が、
西日本で初めて拠点を設けたのが京都市の西日本営業所でした。
それから10年、京都市の皆様へ温かいご理解、ご支援をいただけたからこそ、
西日本エリアで滞りなく業務を進めることができたと思っております。
誠に有難うございました。

この間、西日本の社員数は増え、業容が拡充、業務も漆喰製品から漆喰工事まで多様化いたしました。
業務エリアは大阪を中心に近畿全域、東海、北陸、中国、福岡、沖縄に広がり、事務所の拡充が必要と判断いたしました。
検討の結果、大阪国際空港に近い大阪・豊中市に移転し、「支店」として新たなスタートをすることになりました。

大阪支店は8名の社員とともに、弊社西日本の拠点として、
「漆喰工事業」・「漆喰DIY事業」の2つの事業に特化して業務を進めてまいります。
支店は国道176号線沿いのマンション ガラス張りの一階になり、
店内には弊社漆喰工事ショールーム「SHIKKUI Design STUDIO -OSAKA-」ならびに、
漆喰うま〜くヌレール体験型ショールーム「うま〜くヌレールLABO 大阪」を併設いたします。

店内は看板、カウンター、室内壁・天井全面いづれも、弊社工事部による漆喰です。
国道を通る皆様には、日中だけでなく夜も支店内をライトアップして漆喰ならではの美しさをお見せする予定にしております。
9月1日(月曜日)より通常営業とし、日曜日、祝祭日をのぞく毎週月曜日〜土曜日※1、
「SHIKKUI Design STUDIO -OSAKA-」、「うま〜くヌレールLABO 大阪」いずれも営業いたします※2。
一人でも多くのお客様にお越しいただき、
漆喰の壁を見て触れて、漆喰の美しさ、心地よさを体感していただくことを心より願っております。

弊社 日本プラスターは、日本中に漆喰の美しさ、心地よさ、素敵さを、
これからより一層精力的に伝えてまいります。
3年後に迎える創立100年、そしてその先に向かって、
日本プラスター社員一同、皆様のご期待により一層お応えできますよう、全力で社業に邁進する所存です。
どうか今後共倍旧のお引き立てを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



大阪支店デザイン画

令和7年(2025年)8月1日
日本プラスター株式会社
代表取締役

奥山 浩司



国際クリケット場) る漆喰壁の駅舎



ロスオリンピックの公式種目
クリケットの聖地として。

2028年アメリカのロサンゼルスで開催される夏季オリンピックで、公式種目として採用されるクリケット。イギリス発祥の球技で野球の原型とも言われ、世界の競技人口は3億人以上と、サッカーに次ぐ競技人口を有する世界的なスポーツです。

日本国内においては1984年に日本クリケット協会が設立され、「健やかで豊かなスポーツライフの実現」「人、コミュニティ、国を近づける架け橋となること」をミッションに、様々な活動が続いています。その活動のひとつ「クリケットのまち」プロジェクトは、競技施設の整備を戦略的立地で進める地域密着型の普及プログラムで、地域社会に於ける青少年の健全育成、夢づくり、国際交流、経済効果などに貢献しています。

なかでも、栃木県佐野市は9つのグラウンドを有し、市内の学校では体育や部活にクリケットが導入されるなど、地域一体となって日本クリケットの発展に取り組むリーディングシティーです。特に2018年にオープンした佐野市国際クリケット場は、全国大会はもちろんのこと数々の国際大会も開催される、まさに日本クリケットの聖地。今や佐野市には、英国大使、インド大使をはじめとする英連邦要人が毎年ご訪問され、クリケットが盛んな国々の人々も百人、二百人、そして一千人と大勢訪れています。

東武佐野線 田沼駅(佐野市) 誕生、世界に誇

日本プラスターが本社を構える
栃木県佐野市を走る東武佐野線。
その主要駅のひとつ田沼駅が、
今年6月に副駅名を「佐野市国際クリケット場」とし、
駅舎をリニューアルしました。

当社工事部による漆喰工事と、
佐野市民の皆さんの手による
漆喰うましくヌレールDIYで
生まれ変わった新たな駅舎をご紹介します。



リニューアル前の壁はサイディングで昔ながらのたたずまいでした。

東武佐野線田沼駅は、競技場の最寄駅として世界各国のプレイヤーやファンをお迎えする重要な拠点です。佐野市と世界、日本と世界を繋ぐ場所として、大切なお客様を迎えるにより相応しい駅へとリニューアルが決定。「駅舎の壁は佐野市の地元産業である漆喰で装飾したい」という、日本クリケット協会からの強いご要望を受けて、壁の施工は日本プラスターが担当する運びとなりました。

こうして始まった田沼駅のリニューアル施工。私たちは駅をただ漆喰で塗るのではなく、訪れた世界中のお客様に、感動や驚きを与え、試合の興奮と共に心に残る壁にしたいと考えました。そのためには漆喰施工の「当たり前」に甘んじない、斬新なデザインと施工への挑戦が必要となります。その一番の目玉が駅舎正面に広がる、水色からピンクへのグラデーション施工でした。





プロの技術とDIYの温もりの共存。競技へのリスペクトを込めた施工。

当社漆喰工事による施工は、駅舎の外壁とホームへ向かう地下通路に施されています。駅舎正面はクリケット日本代表のユニフォームカラーをイメージした水色とピンクを、グラデーションで繋ぎ合わせた美しいデザイン。この色の移り変わりを駅舎という大きな壁面で実現するには、高度な左官技術はもとより、漆喰の豊富なカラーバリエーションを有する、当社ならではの製品力が必要となります。更には、サイディングの下地に対し、割れや浮き、剥がれを起こさず仕上げる必要もあり、デザイン性と壁としての丈夫さの両方を実現するのは並大抵のことではありません。日本プラスターの漆喰の特徴のひとつでもある美しい色が、左官技術によって徐々に変化していく様を、現地でぜひお楽しみください。

駅舎側面と正面の一部にある白い壁は、田沼小学校6年生の皆さんと市民の皆さん、駅職員の方々の手によるDIY仕上げとなっています。普段利用している駅を自分たちの手で施工できるという貴重な機会に、子どもも大人も夢中できてを滑らせていました。皆さんのご協力もあり無事に完成した壁には、佐野市のゆるキャラさのまるのパネルと、躍動

感ある選手のパネルが配置されており、ますので、フォトスポットとしてもお楽しみいただけます。

さらに、改札を抜けてホームへと続く地下通路は、通路全体をクリケットフィールドに見立てたデザイン。地下特有の下地の暴れ（湿度や温度の変化によって生じる、反りやねじれなどの変形した状態を抑えつつ、美しく仕上げる必要がありました）が、こちらも左官技術と製品力でカバーし、明るくユニークな地下道に仕上がりました。

両端の壁にはクリケットの試合でアウトを取るのに欠かせない、ウィケットという3本の柱がそれぞれ描かれています。ウィケットはクリケットを象徴する大切なアイテムのひとつですので、実物と同じ比率にこだわり、立体的に漆喰を塗り重ねて円柱を表現しました。ちょうどこのウィケットを施工しているタイミングで、クリケット女子日本代表の選手が田沼駅を通ることがありました。施工を終えた壁を見るや「ウィケットだ!」と気付いてくださり、中には壁の前で写真を撮る姿も。競技に打ち込んでいる方々が、こんなにも喜んでくださったことに、施工担当者一同ホッと胸をなでおろしました。



地元小学生のこの真剣な表情。



大人も子どもも一緒にトライしました。



田沼駅駅長さんも!!

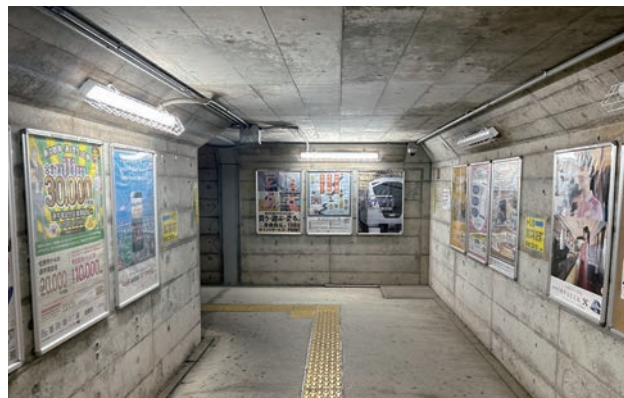
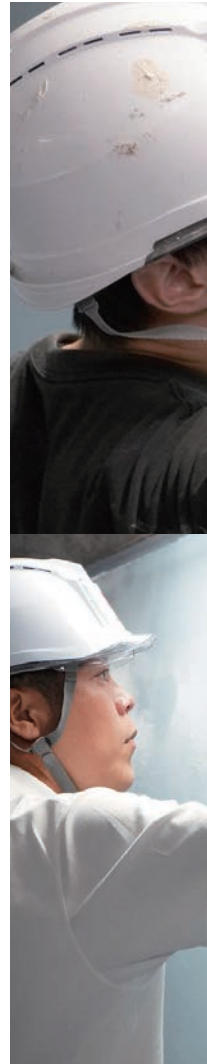


ただ塗り替えるのではなく、市民と共に作り上げることができるのが漆喰DIYの素晴らしいところ。

ホームへ続く地下道は、薄暗い印象でしたが、プレイヤー気分が楽しめる、ピッチを模したデザインに大変身! 世界中のお客様を迎えるにふさわしい姿へと、漆喰工事で変貌を遂げました。



漆喰を厚く塗りつけて作り上げた立体的な造形。施工時には想定外のトラブルが起こることもありましたが、なんとか乗り越え完成に漕ぎ着けました。最終工程であるウィケットの造形は、まさに壁に命が吹き込まれた瞬間でもありました。





駅舎正面の壁は日本代表ユニフォームの青とピンクをイメージしたカラーリング。躍動するクリケット選手のように、イキイキとした表情の仕上げをぜひ間近でご覧ください。



人気キャラクターさのまるも駆けつけた除幕式。金子佐野市長やDIYに参加してくれた田沼小学校6年生の皆さんと共に完成を祝いました。



塗料のように色の境界線を簡単にボカすことができないため、微妙な色差の水色とピンクの漆喰を幾重にも塗り重ねることでグラデーションにしています。

日本クリケットと共に 佐野から世界へ。

駅舎という広い面積でのグラデーション表現など、当社としても初の試みが詰まった東武線田沼駅（佐野市国際クリケット場）。6月7日には除幕式が行われ、その全貌が一般に公開されました。その翌日には、佐野市国際クリケット場にて「女子佐野市国際トロフィー」の決勝戦が行われ、日本が強豪香港を抑えて見事優勝を果たし東アジアナンバーワンの座を獲得しています。

クリケットのまち佐野を代表するクリケットステーションとして、これからも世界各国からのお客様と、多くの喜びや夢や希望を送り届ける田沼駅。その感動の拠点を漆喰で仕上げることができたことを、社員一同心から誇りに思います。クリケット観戦へお越しの際は、ぜひ駅舎の漆喰壁もお楽しみください。

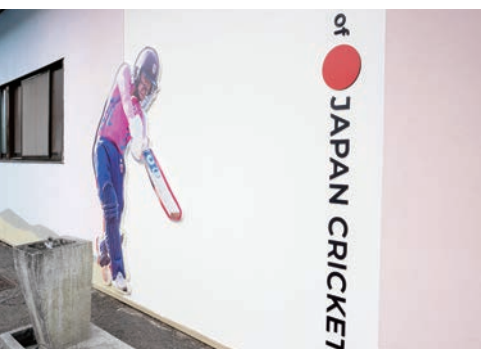
駅舎正面の壁を漆喰のグラデーションで仕上げるに聞いた時は、塗りでのグラデーション施工は非常に難易度が高いことから、正直避けた方が良いと思いました。しかし、当社デザイナーの強い思いに突き動かされ、事前に何度も試作と練習を重ねて実現方法を模索。なんとか実現の糸口を見つけて、いざ施工に取り掛かったのですが、1回目の施工では美しく表現することができず、その日はすっかり自信を失ってしまいました。

しかしその翌日、現場にデザイナーや技術者たちまでが集まって、みんなで成功に向けた打ち合わせをすることができました。おかげで気持ちを持ち直すことができ、グラデーションに再挑戦。無事にグラデーションを仕上げることができましたが、これ以降も様々な問題が発生し、最後まで気の休まらないヒヤヒヤの連続で、全てが終わった日の夜は流石にぐったりしてしまいました。

駅舎のデザインはクリケットの試合や会場の風景を描くと共に、グラデーションで四季を表しているように感じます。地下道は実際に試合に混ざってプレーをしている気分になるのではないのでしょうか、まるで選手になったように。全体的に会場に着く前から、クリケット場の雰囲気味わえる仕上がりだと思えます。多くの方が利用する駅、多くの注目を集める施工でプレッシャーもありましたが、無事に完成したことを心から嬉しく思います。



施工担当
一級左官技能士・
登録左官基幹技能者
工事部 江端 理



除幕式の翌日に行われた女子佐野市国際トロフィーで見事優勝したクリケット女子代表のみなさん。いざ、日本から世界の舞台へ！



多くの人の想いが集まった駅舎。
地域の誇りを世界へ伝えたい。

子供の頃から縁あってクリケットという競技に携わっていて、私自身も日本代表選手としてプレーをしていました。クリケットは世界中で楽しまれているスポーツなので、競技を通じて世界中の人と出会うことができます。それこそ、名前を知っているかどうかというような遠くの国の人や文化とも交流することができて、これが自分にとつてすごくいい経験でした。今、こうして日本でクリケットの普及に努めているわけですが、私としてはクリケットというスポーツを広げたいというより、クリケットを通じて佐野や日本の子供達に、世界と触れ合う機会を作ってあげたい。これが社会を変える、ひとつのきっかけになるのではないかと、という想いが強いですね。

佐野市に拠点を構えた理由はいくつありますが、一番は地域の人たちが、とても前向きに応援してくださっていたという点ですね。また、東武鉄道さんとは昨年の6月に「沿線価値パートナー契約」を結んで、様々なイベントを実施しています。今回の田沼駅のリニューアルについても、地元の方が副駅名を提案してくれて、東武鉄道をはじめ市民、商工団体、市、サポータークラブの皆さまのご協力のおかげで実現できました。そんな中、私が唯一こだわったのは、壁を漆喰にしたいという点です。（佐野市国際クリケット場内にある）このテイルームの壁も、以前使用していた事務所の壁も日本プラスターさんの漆喰をみんなで塗ったのですが、やっぱり空気がいいし見栄えもいい。地元の特産である石灰石を使っているし、これはぜひクリケットを通じて佐野にきた人たちに知ってもらいたいなと思って、壁は日本プラスターの漆喰で仕上げたい！と、お願いした感じですね。

田沼駅に到着するとまずウェルカム看板があつて、階段を降りるとクリケットのピッチが広がって、ワクワクする空間になったと思います。ここまで大々的にクリケットをモチーフにした駅は、私の知る限り世界的にも田沼駅しかありません。この駅を見に多くの人が集まってくれたら嬉しいですね。



一般社団法人
日本クリケット協会
事務局長 宮地 直樹氏

躍進する漆喰

MOBILE SHIKKUI SHOWROOM

走る! しっくい 漆喰ショールーム

漆喰 うま〜くヌレール[®] カー

始動!!!!



漆喰空間の心地よさを
もっと多くのお客様に
届けたい。

漆喰うま〜くヌレールを塗った部屋は
空気が違う——これは、多くのお客様から
いただくリアルなお言葉です。当社の漆喰
は壁そのものを美しく仕上げるだけで
なく、空間全体の質を上げ、空気まで変えて
しまうような魅力と機能性を兼ね備えてい
ます。私たちはかねてより、この空間の快適



走る！漆喰ショールーム 漆喰うま〜くヌレールカー

お問い合わせ

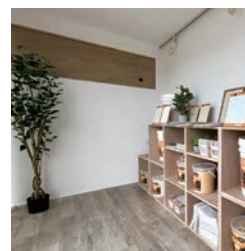
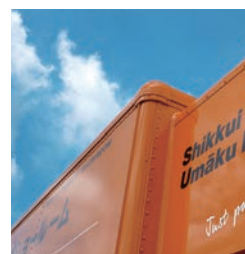
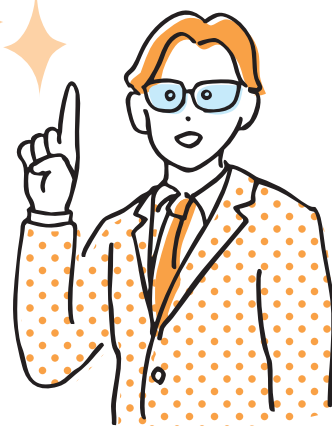
TEL: 0120-323-960(8:00~17:00) MAIL: info@plastesia.com



全国を走る漆喰うま〜くヌレールカー。
走って、揺れて... 漆喰うま〜くヌレールの壁は
割れたりしないの!?



よくぞ聞いてくれました!
漆喰うま〜くヌレールの壁は
とっても丈夫!
走って揺れても、
割れも剥がれもしないのです!



しかし、私たちはまだまだ満足できません。東京や大阪へお越しいただかなくても漆喰空間を体感していただける手段はないだろうか？そう考え、ついに誕生したのが、「走る漆喰ショールーム 漆喰うま〜くヌレールカー」です。

車内を漆喰で仕上げた車体は、まさに走る漆喰空間。実際に見て、触れて、漆喰うま〜くヌレールの質感や色を確かめていただくことができます。まずは、全国のホームセンターで実施される実演会&お試し塗り会に登場予定ですので、ぜひ実物を見にお越しください。

また、ゆくゆくは皆さまのご要望にお応えして、実演会場以外へも出張できるよう準備を進めております。興味のある方はぜひお問い合わせ、ご相談ください。

各地の道路で、うま〜くヌレールオレンジの車体を見かけたら、ぜひ声をかけてくださいね！

皆様のもつと近くへ！
走る漆喰ショールーム。

さを一人でも多くのお客様に体感していただきたいと考え続けています。東京都台東区上野にある漆喰デザインスタジオ東京や、8月28日に開設する大阪支店内漆喰デザインスタジオ大阪は、その思いを具体化した施設のひとつ。全面を漆喰で仕上げた部屋は、訪れたお客様に漆喰空間の快適さを体感していただけます。

出展します!!

最新! 漆喰研究情報!!



五感で感じる、 日本プasterの研究開発力&生産技術

漆喰の機能性と新たな可能性を研究する技術部より、最新の研究結果をご報告。また、製品品質の裏付けともなる生産技術に関する展示もご用意しています。見て、触れて、聴いて(!?), 漆喰うま〜くヌレールの品質と機能性を体感してください。



実演&お試し塗り会開催!!



漆喰うま〜くヌレールと言えばコレ! スケールアップした実演を お楽しみください!!

22年前、当社代表取締役 奥山が始めたホームセンター店頭での実演販売は、お客様と製品を繋ぐ大切な出会いの場として、現在でも社員によって引き継がれています。2025年はさらにスケールアップ! 皆様に驚きと感動をお届けします。

漆喰うま〜くヌレール song も発表!?

待望(?)の漆喰うま〜くヌレール song が ついに完成しました!!



今回「漆喰うま〜くヌレール song」を制作していただいた、作曲家・編曲家の渡辺 剛氏よりコメントをいただきました。「漆喰DIYの正解のない自由な創造の楽しさや、みんなで作り上げる面白さを曲に込めました。漆喰を塗りながら口ずさんでしまうような、そんな曲に育ってくれたら嬉しいです。」

昨年大好評の
うま〜くヌレール
キーホルダー第二弾!
スタンプラリー参加で
もらえる!!

漆喰
力ーも
来るよ!!



NEW VALUE DISCOVERY

Unleashing the true power of SHIKKUI — the key to Japan's future starts now!

今年もDIYショーに

今年の

テーマは漆喰うま〜くヌレール 新価値発見!!

2025年8月21日(木)〜23日(土)にかけて、
幕張メッセ 国際展示場で開催されるホームセンター業界最大の総合展示会
「第61回 JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2025」に、
今年も日本プラスターが漆喰うま〜くヌレールで出展します!
発売から22年、漆喰DIY No.1ブランドの看板に甘んじることなく、
これからも進化していく漆喰うま〜くヌレール。
その最新情報を、ぜひ会場でご確認ください。

第61回
**JAPAN DIY
HOMECENTER SHOW 2025**
DIYショーに関する情報は
公式HPから >>
<https://diy-show.com>



ママだけの特別ステージ!!



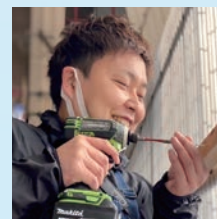
設案 敦氏

DIYライフマガジン『dopa(ドゥーパ!)』編集長 設案 敦氏によるトークセッション

8/22(金) 11:30スタート予定

「日本の住まいは
漆喰うま〜くヌレールで変わる!!
漆喰がつつなぐサステナブルな未来」

セッション: 株式会社ARC研築 代表取締役 村上貴信氏



村上貴信氏

8/23(土) 14:00スタート予定

「何が違うの? なんでいいの?
漆喰うま〜くヌレールぶっちゃけ話」

セッション: 日本プラスター株式会社 代表取締役 奥山浩司



奥山浩司



くらべてみました! 左官 vs DIY

当社が誇るしっくい左官社員と、漆喰うま〜くヌレールDIYの塗り方勝負。
漆喰うま〜くヌレールは本当に簡単に塗れてプロ並みの仕上がりなのか?!?
職人さんからも選ばれる理由もわかる!

皆様の飛び入り参加也大歓迎!

青源味噌様創業400年に寄せて

想いを繋いだ漆喰。



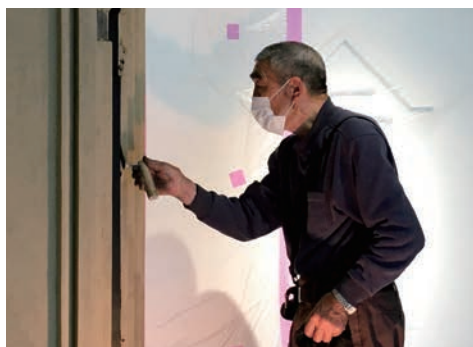
施工担当の工事部 江端。ここで得た経験は、後の土蔵補修にも生かされました。



青源味噌の歴史を物語る数々の品が保管されていた、実際の文庫蔵。



モニュメント中央に描かれた文字は、竹串と麻縄を用いる伝統技法で作られています。



多くの技術を教えてくださいました、蔵施工の名工・小松七郎氏。



栃木県宇都宮市にある青源味噌株式会社様は、400年にわたり味噌をはじめとした発酵食品、並びに味噌加工品などの製造と販売を行う老舗です。今回は青源味噌様創業400年に寄せて、その長い歴史の二ページとなる、文書蔵のお話をご紹介します。

青源味噌株式会社

青源本店 栃木県宇都宮市旭1-4-32

電話 028163313335

定休日 お盆・年末年始

営業時間 10時～17時

しもつけ工場 栃木県下野市下古山294516

<https://www.aogen.co.jp>



戦火を生き抜いた青源味噌のシンボル。 引き継いだのは形ではなく、心そのもの。

寛永2(1625)年、栃木県宇都宮市三番町(旧・石町)で創業した青源味噌。創業以来慣れ親しんだ土地から、本社並びに工場を現住所へ移転したのは、創業400年を目前とした令和3年のことでした。本社は宇都宮市旭の青源味噌社長青木氏の実家があった場所へ、工場は下野市下古山へとそれぞれ移転します。それは、これからも勇気を持って変化していこうという強い意志の現れでもありました。

移転に際しては、その歴史を極力残す工夫がなされました。旧本社や実家を解体する際に出た大谷石や飛び石をインテリアやエクステリアに活用し、

無垢板の看板、屋根の樋受け金物などは、そのまま新社屋に移設しています。その一方で、断腸の思いで置いてきたものがあります。それが、文化2(1805)年に築造された文庫蔵でした。

「青源味噌は創業から今に至るまで、何度か火災に見舞われていまして、最初は安永2(1773)年の宇都宮安永の大火で店舗を失いました。その後、文庫蔵を建てるのですが、おそらく過去の経験から絶対に燃えないものと考えたのでしょね、土蔵石張り建てました。それから慶應4年の戊辰戦争、昭和20年の大東亜戦争の宇都宮空襲と、店舗や工場は度々の戦火にさら

されてきましたが、文庫蔵だけは焼け残りました。空襲の時などは、一帯が焼け野原となったなか、うちの文庫蔵だけが焼け残り、遠くからでも見えたと言っています。

当社が創業400年と謳えるのも、文庫蔵が私たちの歴史を守ってくれたからこそです。かつては蔵の前で毎朝ラジオ体操をしたり、「蔵前で集合」とか、蔵前に置いておいて「なんて話すような、まさに日常の一部分であり、あつて当然の存在でしたから、諸事情によって移設ができないと決まった時は本当にショックでした。そこで、せめてその歴史を残すモニュメントを、本物の蔵と同じように作ることができないかと奥山社長に相談し、実現することとなりました(青木社長)」

青木社長の依頼を受け、モニュメント

は実際の文庫蔵と同じ寸法、技法、様式、仕様を取り入れ、蔵造りの名工、小松七郎氏にご指導をいただきながら施工を進めました。京都から取り寄せた土に藁すき、川砂を混ぜて下地を塗り始めると、社員の方がガラス越しに作業を見学する姿も。「毎日見ていた蔵なので、様々な思い出もあり、もう見られないのは寂しいなと思っていましたけど、このような形でまた見られるのはとても嬉しいです」という、ありがたいお言葉をいただくこともありました。

それから4年、完成したモニュメントは、今日も青源味噌しもつけ工場のエントランスで、働く仲間たちを見守っています。これからの百年も、青源味噌の一部として生き続けることでしょう。

SHIKKUI FAN MAP

漆喰散歩

漆喰ファンによる、漆喰空間を楽しむ(fun)コーナー。
毎号漆喰空間が心地よいお店をご紹介します。
今度の休日にちょっとそこまで足を伸ばしてみませんか？

栃木県足利市【フルーツサンドと食パンの店 まいにちしあわせ】

vol.7



カウンターは優しい色味の黄色を合わせ、シンプル＆ナチュラルなイメージで仕上げた店内。トイレはオーナーのご主人がひとりで天井まで仕上げた清潔感あふれる力作です。

栃木県足利市は、詩人で書家の相田みつをさんが生涯を過ごした土地。この人情味あふれる町に今年の5月にオープンしたのが、フルーツサンドと食パンの店「まいにちしあわせ」です。

「小麦粉は栃木県で唯一の製粉所が県内産小麦で作ったものを使い、フルーツサンドのイチゴは全て市内の農家さんから仕入れています。他にも、地元のたい焼き屋さんの餡子を使うなど、素材は地元産にこだわっています（オーナーの定方様）。

笑顔としあわせを分け合うような
地元愛にあふれた街角のパン屋さん。

店舗は元々事務所だった中古物件を仲間たちと総勢8名で、漆喰うま〜くヌレールをワークシヨップ形式で塗り上げました。「他にも壁紙剥がしを手伝ってくれた人、今日ちょっと手伝え、ますって手を貸してくれた人など、なんだかんだと20人ぐらいの人が協力してくれましたね（定方様）。

多くの仲間たちの応援と美味しい地元の食材に支えられ、今日も「まいにち」食べたくなる、食べて「しあわせ」な味を届けています。



フルーツサンドと食パンの店
まいにちしあわせ

栃木県足利市通2丁目13-5

営業時間 11:00～17:00
定休日 月・火



旬の果物をたっぷりと使用したフルーツサンドは、まさに毎日でも食べたくなるおいしさ。



地元FM局のリスナー仲間、画家の山口清美さんから送られた絵画と漆喰壁が好相性。

「漆喰散歩」では、漆喰うま〜くヌレールでDIYをしたお店や施設を募集中です!!
ご提供いただいた情報は、本誌の他、SNS、公式サイトにてご紹介させていただきます。
掲載ご希望の方は、下記のEメールアドレスまでご連絡ください。



発行

日本プラスター株式会社

<https://www.plastesia.com>

本社・工場

〒327-0311 栃木県佐野市多田町188-2
TEL:0283-62-6511(代) FAX:0283-62-8851

・SHIKKUI Design STUDIO -TOKYO-
・埼玉事業所 ・西日本営業所

「漆喰と暮らそう」についてのご意見・感想をお聞かせください▼

E-mail: info@plastesia.com

日本プラスター株式会社
WEBサイト



漆喰スタイル
WEBサイト



漆喰うま〜くヌレール
WEBサイト



漆喰うま〜くヌレール
Instagram

